

ベストカー読者の皆さん

SDGs時代に知っておきたい!

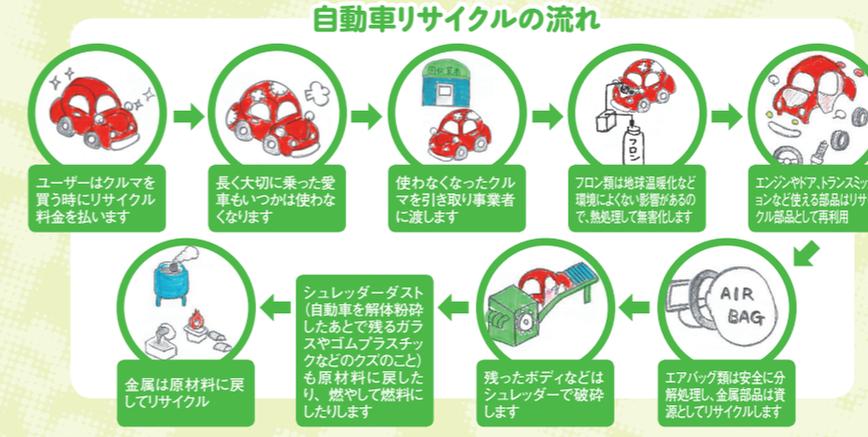
自動車のリサイクルって知ってる!?

自動車リサイクル料金の目安

シュレッダーダスト料金	エアバッグ類料金	6000円~1万8000円程度
エンジン類料金	フロン類料金	130円
情報管理料金	資金管理料金	290円

リサイクル料金の額は、メーカー・輸入事業者が「クルマの種類」「エアバッグ類の個数」「カーエアコンの冷媒の種類」などにより、1台ごとに設定します(1台あたり6000円~1万8000円)。このほか、自動車リサイクル促進センターが国の認可を受けて設定する「情報管理料金」と「資金管理料金」が加わって、合計5種類の料金で構成されています

大事に乗っている自動車にも、いつかは終わりがやってきます。でも、「自動車の最期」ってどうなっているんだろう?」と思っている方も多いはず。事業者さんに引渡した愛車がどのように処理されているのか? 実は知らないことばかりです。そこで今回はベストカー編集部が、自動車リサイクル促進センター(JARC)さんの協力のもと、自動車リサイクルの流れを徹底解説します!



へえ、こんな感じでリサイクルされるんですね。

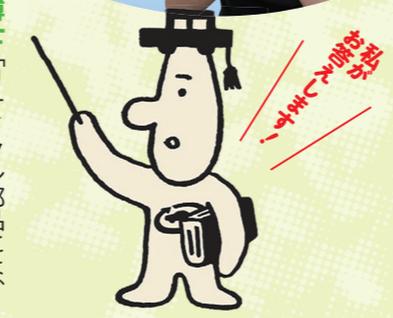
ベストカー飯嶋編集長が自動車リサイクル博士に訊く!

リサイクル次世代の課題とは?



飯嶋編集長(以下、編集長)「博士、本日はどうぞよろしくお願い致します」
 自動車リサイクル博士(以下、博士)「編集長、こちらこそよろしく致します」
 編集長「さっそく質問なのですが、ユーザーの皆さんが自動車購入時にリサイクル料金を前払い方式で負担するのはなぜですか?」
 博士「これは使用済み自動車不法投棄された場合の環境負荷などを考慮して前払い方式が採用されているんだよ」
 編集長「なるほど。ところで、部品にもリサイクルされたものがあるようですね?」

博士「リサイクル部品には、『リユース部品(中古部品)』と『リビルト部品(再生部品)』があるんだ。リユース部品は使用済み自動車からまだ利用できる部品を取外しし、しっかり検査したうえできれいにして再利用する部品だね。一方、リビルト部品は、使用済み自動車から取外した部品や修理した時の交換部品等をもとに、その構成部品のなかですり減ったものなどを新品と交換して再び組み立てた部品なんだよ」
 編集長「確かに環境的な目線から考えると資源は有効に使いたいですね?」
 博士「そう、コスト的にもお得だからね。そういえば編集長は今までどんな愛車に乗ってきたの?」
 編集長「聞いてくれます? いすゞのジェミニから始まり、現在のR34スカイラインGT-Rまで計5台の愛車を



駆っています(5台のうち3台がスカイライン)」
 博士「スカイライン愛が強めだね」
 編集長「エンジンが魅力的なんです。でも電気自動車、自動運転の流れがやってきて、自動車業界にとっては大変革の時です。これからの自動車リサイクル業界はどうなんでしょうか?」
 博士「自動車リサイクルにおいても自動車を構成する部品や素材の変化も予想されているね。その変化に伴い、リサイクル制度の在り方も変わっていく可能性があるよ」
 編集長「具体的な課題はどんなものですか?」
 博士「電気自動車普及すると、例えばそのリチウムイオンバッテリー(LiB)のリサイクルが課題だね」
 編集長「なるほど」
 博士「自動車に搭載されるLiBは、非常に質が高いことから、自動車用としては使用が難しくなったLiBの、家庭用の蓄電池などへの再利用(Liユース)が進められているんだ。現在、自動車メーカーは回収

なるほど!」

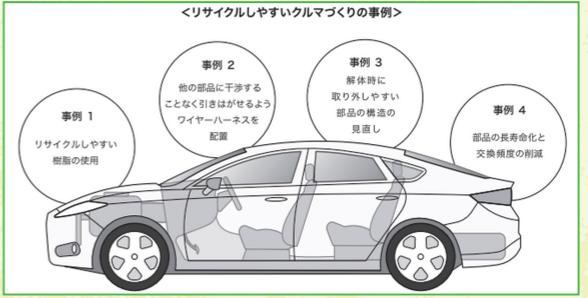
自動車リサイクル促進センター(JARC)のホームページでは、自動車リサイクルへの理解を深めてもらうべく、リサイクルについて詳しく学べるさまざまなコンテンツを公開中なので、ぜひご覧ください!
 クルマを長く大切にしたり、修理する際にリサイクル部品を使うことも資源を有効利用する循環型社会にとって大切な取り組みです。ベストカー読者のあなたも自動車リサイクルの知識を深めて、環境に優しい自動車好きになってみませんか!?



制度ができる前、2002年ごろの様子。使用済み自動車のリサイクル率は80%程度と低くはなかったものの、金属などの素材や部品をリサイクルしたあとに残る「シュレッダーダスト」を処理するための埋立処分場の逼迫、使用済自動車の不法投棄などが問題に

2 005年1月から本格稼働したリサイクル制度は、既存の使用済み自動車のリサイクル産業の基盤を活かしつつ、自動車ユーザーをはじめ、自動車リサイクルに関わる事業者の役割を明確にし、ゴミの削減と資源の有効利用を目指した社会システムです。

実際に回収された使用済み自動車は、エンジンやトランスミッションなど使える部品を分けていくのですが、ユーザーが支払うリサイクル料金によって回収・処理されるのは「エアバッグ類」「フロン類」「シュレッダーダスト」の3つになります。エアバッグ類は金属部分を再利用、フロン類はカーエアコン用冷媒として使われているフロンガスを回収、熱処理して無害化します。シュレッダーダストとは自動車解体粉砕したあとで残るガラスやゴムやプラスチックなどのクズのこと。こちらもさらに分別して原材料に戻したり、燃料として再利用します(シュレッダーダストのリサイクル率は約98%。凄い)。



このように循環型社会に向けた自動車リサイクルの関係者の努力と工夫により、使用済み自動車のほとんどがリサイクルされ、現在も絶え間なく、リサイクル率を高める取り組みが進められています。

詳しくは自動車リサイクル促進センターのHPをチェックしてください」

